

せん じゆ てつ どう 千住の鉄道

— 進化をつづける千住 —



▲永沢まこと(足立60景)



▲北千住駅を出発した機関車(昭和39年) 石坂満氏撮影

明治26(1893)年、千住茶釜橋(現在の千住新橋付近)と越谷の間を結ぶ千住馬車鉄道が開通しました。これはレールの上を走る乗合馬車でしたが、その三年後には、日本鉄道土浦線(現、JR常磐線)が開通し、「北千住駅」も開業しました。明治32年には東武鉄道が北千住～久喜間で開通。千住の人々の交通事情を大きく変えました。当時の鉄道は蒸気機関車でしたが、大正時代には電車の運転も開始されました。昭和3(1928)年には、路面電車である東京市電が新しくなった千住大橋を経て新国道四号に開通しました。これは、昭和18年の都政の施行にともない「都電」と呼ばれるようになります(昭和43年に廃止)。平成17(2005)年には秋葉原～つくば間を結ぶ「つくばエクスプレス」も開業。千住と鉄道の歴史は、今なお、進化を続けています。



▲北千住駅西口(昭和28・29年)



▲国道4号を走る都電(昭和28・29年)